



南部言實傳記
 三篇
 乾

リ 5
 3517
 6



明 卯 5
編 35/7
卷 6

一 和賀西根仙臺領讀謂書之夏

一 慶安年中秋回卜南郊讀編目安書并返答書之
事

一 仙臺領讀後嗣か入書之夏

和賀西根仙臺國境と謂後按從古來代々
古人甲傳置作事



一古首鳥羽院の御宇西の法師は國へ下りて作法
よりは利へ紙作内水上の邊り童部を人よりと物
飛き好と物見て其綿と賣ると同く童部
一首

水上と點とる川と知あうとさうりかよさあせ
ちうりさせ

い川れ瀬りとむ點乃脂とせうりかよい
さうりあうりせ利

と二首と讀しぬと主河物りさあさうりさあ

一 同三人我等とに^利乃内秋後とまゝ一人の事記す
 作中 西のふれりるを多記す是程の秋と後より以て
 秋後人を奇に上りしつゝ一に判り延向しと為
 せんと思ひ江判り如賀(越)として一福瀬ヶ浦と
 越作四世川と福瀬ヶ浦とを何の謂とて同とを
 船人中よりとびり一和賀と江判り後編作て誓
 江判り人々後へか合互り回答す此れ亦岳^{カドヲカ}園山と
 白物抄弊と加川と流り向り存り上り駒^{カマ}嶽とす
 ありは通し踏分り通い得るまは人々是程のありは
 更なる所として福瀬ヶ浦通のわとを末代の後り
 亮とて述はれ後の上り相云と鬼柳の後とをまは
 本と拙まは長根と中作又炭と撰てす之塚と中作い

川と福瀬ヶ浦の流りありて福瀬ヶ浦の流りありて
 中作中り福瀬ヶ浦の流りありて中作中り福瀬ヶ浦の流りありて

陸奥如賀と江判り後と川とを福瀬
 山りまは、平林

一 其の後葛西殿岩傍の城改めんとて石の場と

と後述きりし中作福瀬ヶ浦通い後姓名詞			
四丁石	福瀬ヶ浦	赤石ヶ鼻	文子ヶ墓
すし長根	炭塚	鷹の原	白洗ヶ根
禍破ヶ根	板峠	石ヶ石	寺小橋
八平林	後長根	入道法	馬留
三角沼	尾ヶ平林	前平林	御天

右記拾箇前末代の後り宛きり初とす
 一 其の後葛西殿岩傍の城改めんとて石の場と

河内馬作、若狭の城南に切岸ありて取
 寄、向うに青作あり、向うに青作あり、
 鬼柳乃城、以成、若狭、以成、若狭、以成、若狭、
 助中、作、向、若、西、の、侍、大、將、以、成、若、狭、
 長根、乃、水、と、和、賀、分、た、れ、と、て、向、北、に、り、り、
 籠、是、と、於、春、若、西、檀、と、P、作、其、合、戦、り、
 云、人、討、死、し、其、其、中、房、一、因、之、の、内、は、隊、
 去年、如、り、ふ、れ、ま、り、つ、り、如、墓、り、
 ね、と、く、く、は、り、と、多、の、那、
 と、讀、ま、り、と、P、作、又、合、戦、の、場、と、是、度、と、中、作、法、
 余、の、而、く、一、首、
 奇、り、の、如、賀、如、の、法、ま、り、と、
 幸、し、世、乃、は、り、の、如、小、法、り、と、
 一、者、は、関、和、賀、如、の、法、一、者、は、
 あり、り、の、如、り、の、法、
 と、二、首、と、讀、ま、り、と、
 一、白、石、若、狭、あり、法、と、在、城、の、内、
 使者、り、と、二、人、加、賀、若、田、保、
 家、を、預、山、和、泉、と、云、人、と、上、代、り、
 若、加、賀、也、若、信、り、と、若、狭、中、代、り、
 謂、能、持、在、若、狭、の、内、
 と、述、り、は、信、り、と、後、後、目、と、
 是、の、如、信、り、と、
 之、の、信、業、如、り、今、之、
 城、の、内、後、信、り、と、

一 白石若狭あり法と在城の内
 使者りよ二ヶ所加賀若田保
 家を預山和泉と云人の上代り
 若加賀也若信りよ若狭中代り
 謂能持在若狭の内
 と述りは信りよ後後目と
 是の如信りよ
 之の信業如り今之
 城の内後信りよ

檢有り内々物越後佐川下野与人岩崎の後(とある)
從南郡及并初解由新渡戸の橋然吾を所(とある)
并拍山平尾の家来高屋以之の四人おの作建分
の古人よと相云此の業新為と中者南郡の古人は
川原田新田と中者おの作と云云然業中作は江刺
と云云(和賀)と云云しりしりしり上は皆江刺
と云云なりと云云其時高月の中は江刺及和賀及越後
子信も我等中内作後のお入る事と中作何と云云
能得る事の中は高屋以之のお入る事なり新業中作は江
刺と云云を和賀なりと云云しりしりしり其主謂知りし
同云と云云然中と謂と不存と云云と云云しりしりしり
の事しりしりしり内以之の中作は我等江刺と云云然江刺
譜依に江刺也又和賀西根の玉後能得ると云云
和賀也此法也其見也云云

一江刺と云云和賀と云云しりしりしり新為と云云は言
りしりしりしり可中は能得る事なり
江刺と云云を中作は其主謂同と云云然江刺は
云云と云云しりしり又和賀なりと云云しりしり
和賀の
郡西東と云云豊川目小南と云云横川目と云云作西東乃
長と云云遠也後より仙水は後までと云云其の見しりしり
りしりしりしり小南は横川大後乃の岩崎と云云和賀
の後と云云是里も從はに家約の由りしりしりしりしり
と云云其の事なり和賀なりと云云しりしりしりしり
一山の事なりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり

薩摩寺に遊りて事と申すの事上端に上端に
取田よりして先づ法座の事を修めたるは
海のものも島の事も蓋の如くも田代のものも
ちとちと中山のものも和歌歌中より海
中より亦おまの竹葉中したるに
ちどれよとて飛柳の若くは馬草から海
中つれに飛柳の三月十六日の腕船より
腕船よりいふ事の一は
いと申すは
いと申すは
いと申すは
いと申すは
いと申すは
いと申すは
いと申すは
いと申すは
いと申すは
いと申すは

- 一 和賀の言に修在何と修証の事修多と修証修多
- 一 百性在如昔く古屋よ互修の事
- 二 の何目よ立中しり修証と申す修証の事

と修可申事

一 淺地彈正下く以者とも旌立くはく 龍分のり中を
此の糸分母可く事

右に之條はくくは題の御札と禪堂の内取上石と中
へもまな中し又志祖のとも言候ありあ方のゆつりも時
小をまな中し彈正取此札立中へは判の内りは取
上石中へは紫時と皆くは判の内り可ありと
中へもおまに竹葉云云と故中作ま内へ候紙後
ゆしと後の謂へも并流候候、御仰けしと旌
ひ身も後目へ御中分は座を御猶も中へはさしと
南朝の境と御仰通り見可中と中へは崖際あり
長根りりり文字、墓を為す中へははくよとははく
及并御解由も御はしとま身後目とまの御御御

一 主後作違文新守令候と云乃内七和七年二月丁未
岩崎五右衛門上乃細見柳の上の細り或は新者俣と當
りしと御拍山平尾の各所御前候なり是柳と流遊處
は得と是子、迹中へは、おま乃上くは追行作中へは南
朝信濃守領有と俣御或方くする中へは、
御と中作候は是も仙臺の檢者山崎 宗兵衛と中へは
仙臺は年暮在中へは、南朝の御境と云新者中へ
任前御中の地方と俣と當り候御取御の御中
俣と當り候新者中へは、南朝俣御取御
作と中へは武新者中へは、年暮御取御取御
三人御御、主後御取御、年暮御取御取御の御取御
は細前御取御と遠記と御

百福はくち中三行て進前入か身所右に地子
能神江戶吾作沙電と心申康中湯比と心進
とと入中百福は沙破從沙包中柳双方(江作)百
秋田願分よりと心入入之竹西南部沙願分百
姓庶波の山と心粒年全と活新と心我位中
迷思竹右と心後沙包と心江上と心可中と心百南部湯
分毛馬内也痛而而之百姓庶民在也對使江作竹
可江下江日也此仍也作

文治二年 寅 閏十月廿二日

丁卯
辰辰
刑部
傳助
昌隆

御奉行 庶柳

沙破新

妻中と通目安指之百福也古と心度可口と對使
お進系と心可為柳と心也

二月十二日

右京
如雲

毛馬内
而而之百姓中
心痛

秋田南部後目湯比從秋田願目安上中と心有也答
書江恐云上江作

一 秋田願十二日と南部也痛之後自十久字中と心

お心の中は中々うらやまのほろをせぬさほしく回島より
此地方の所産はまけやと申は、産と雖、新田結
光年陰圖を以て中内自^{ヨシ}方陰書と在、京と夫柳河
家中梅津と在、及判形を以て信濃と承む、及方(遠
縁)等と在、長平は、湯山と申、ゆけやの邊と湯山と
之、伊豆、新田結、ゆけやの邊、いつかを以て方、
取し、湯山、成忌の城、筑、何、筑、夫、中、何、此、等
伊公儀、儀、名、牌、ある、右、乃、小屋、中、事、

一 光年、卯、年、山中、より、吉、利、交、丹、抄、改、め、事、上、申、海、以、
方、上、等、回、外、に、出、陣、し、双、方、陣、か、合、五、浪、と、一、山、中、等、整、
可、以、之、為、從、伊、公、儀、儀、名、印、身、山、の、近、西、等、整、等、此、
等、も、極、内、十、四、日、一、番、山、中、に、か、合、五、浪、の、社、と、是、に、中、亮、
作、者、十、三、日、乃、著、よ、乃、い、高、嶺、大、地、村、と、申、の、近、邊、と、
何、者、と、申、知、事、中、四、百、人、年、々、吉、利、交、丹、組、乃、と、も、
名、所、可、以、或、と、為、ら、る、南、よ、極、道、作、者、在、人、此、
く、大、地、村、上、ほ、を、中、に、行、ゆ、き、大、地、村、と、申、
何、者、と、申、作、者、吉、利、交、丹、抄、改、め、何、者、不、審、の、子、細、
中、極、と、大、地、村、と、申、候、事、申、交、百、姓、在、尋、中、分、と、言、名、
宗、中、事、と、申、事、と、申、候、事、申、交、百、姓、在、尋、中、分、と、言、
よ、極、と、大、地、村、百、姓、同、前、給、人、毛、島、内、極、と、申、と、申、
乃、百、姓、三、人、持、人、教、士、指、人、年、々、個、と、申、事、宗、不、中、
吉、利、交、丹、と、申、事、申、交、百、姓、在、尋、中、分、と、言、
却、り、繼、の、事、と、申、一、力、と、申、事、申、交、百、姓、在、尋、中、分、
と、申、事、申、交、百、姓、在、尋、中、分、と、言、

此右邊紅紙下壹度之者下中一同年額
右南福之儀清霄院儀額之通和左感入之儀
額之通紙下作之下中一同額之可年何之

天和二年二月十日

大坊聖之取
常盤集人
只野之集人
志賀之集人
并
惣下中七百五人

御奉行訓

胡
母
氏

